

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
義肢装具学実習		必修	1	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
駒形 純也 他	D320	j.komagata	火曜日 9:00 ~ 11:00		
授業の目的・概要	昨今、我が国では糖尿病罹患者の増加に伴い高齢の下肢切断者が増加しており、リハビリテーションを担当する理学療法士にとって、義肢に関する知識は必須となる。そのため、義肢装具学実習では、まず義肢について講義し、義足患者のリハビリテーションや異常歩行のメカニズムについて考察する。				
学習上の助言	授業内容に関する質問は、授業中やオフィスアワー等に受け付けている。積極的に質問して疑問を解決し、理解を深めて欲しい。				
教科書	PT・OT ビジュアルテキスト 義肢・装具学 第1版/監修 高田治実、編集 豊田輝、石垣栄司/羊土社				
参考書	理学療法テキスト 装具学 (15 レクチャーシリーズ) 編集: 石川朗、佐竹将宏 出版社: 中山書店				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	切断・義肢に関する知識を理解し、切断患者に対する理学療法について説明できる。			PT(2), (3)	
②	義肢に関する知識・メカニズムを理解し、姿勢の崩れや異常歩行について説明できる。			PT(2), (3)	
③	下腿装具の採型手法を理解し、装具作成に関する一連の流れについて説明できる。			PT(2), (3)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	事前事後学習内容・必要時間(時間)		
1	総論①: 切断の概論、疫学を学ぶ。※1	同時双方向型授業	切断の総論について、各回で学んだ事項を配布資料・教科書(pp.16~25)を用いて復習する。	1	
2	総論②: 義肢の基礎知識を学ぶ。※1	同時双方向型授業		1	
3	下腿切断①: 下腿切断について学ぶ。※1	同時双方向型授業	下腿義足について、各回で学んだ事項を配布資料・教科書(pp.90~108, 116~129)を用いて復習する。	1	
4	下腿切断②: 下腿義足のパーツについて学ぶ。※1	同時双方向型授業		1	
5	下腿切断③: 下腿義足のアライメントを学ぶ。※1	同時双方向型授業		1	
6	下腿切断④: 下腿義足の異常歩行について学ぶ。※1	同時双方向型授業		1	
7	下腿切断⑤: 下腿義足の異常歩行について学ぶ。※1	同時双方向型授業		1	
8	大腿切断①: 大腿切断について学ぶ。※1	同時双方向型授業		大腿義足について、各回で学んだ事項を配布資料・教科書(pp.47~60, 68~84)を用いて復習する。	1
9	大腿切断②: 大腿義足のパーツについて学ぶ。※1	同時双方向型授業	1		
10	大腿切断③: 大腿義足のアライメントを学ぶ。※1	同時双方向型授業	1		
11	大腿切断④: 大腿義足の異常歩行について学ぶ。※1	同時双方向型授業	1		
12	大腿切断⑤: 大腿義足の異常歩行について学ぶ。※1	同時双方向型授業	1		
13	サイム義足・膝離断、股義足の特徴を学ぶ。※1,3	同時双方向型授業	配布資料・教科書(pp.110~115, 62~66, 131~142, 144~148, 228~240)を用いて復習する。	1	
14	足義足、義手の特徴を学ぶ。※1,3	同時双方向型授業		1	
15	アシストロボット①: 下肢アシストロボットについて学ぶ。※2	同時双方向型授業	配布資料を用いて復習する。	1	
16				1	
17	リハビリテーション①: 切断端の管理、評価を学ぶ。※1	講義・実習	13回~14回目の配布資料・教科書を用いて復習する。	1	
18	リハビリテーション②: 切断後のADLについて学ぶ。※1	講義・実習		1	
19	下腿切断⑥: 3回~7回目の内容についてまとめを行う。※1	講義・実習	配布資料を用いて復習する。	1	
20	大腿切断⑥: 8回~12回目の内容についてまとめを行う。※1	講義・GW	配布資料を用いて復習する。	1	
21	アシストロボット②: 上肢アシストロボットについて学び、患者への応用について考える。※1	講義・GW	配布資料を用いて復習する。	1	
22				1	

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

23	サイム義足、足義足の内容についてまとめを行う。※1,3	同時双方向型授業	13 回～14 回目の配布資料・教科書を用いて復習する。	1					
試	定期試験 達成度評価・評価のポイント								
達成度評価									
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計		
		80	0	0	0	20	100		
総合力指標	知識・技術力	70	0	0	0	0	70		
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	10	20		
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0		
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	10	10		
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0		
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0		
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0		
評価のポイント					フィードバックの方法				
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点							
試験	①	✓	学期末に試験を実施して評価する。試験では、教科書及び配布資料の内容を基に応用問題を出题し、理解度を問う。				試験返却時に解説を行う。		
	②	✓							
	③	✓							
	④								
	⑤								
	⑥								
レポート	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
成果発表	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
ポートフォリオ	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
その他	①	✓	15～16, 21～22 回目の授業では、授業内で課題を提示する。提出された課題を採点し、成績に反映する。				模範解答などの解説を全体に提示する。確認に来た学生には、解説を行う。		
	②	✓							
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
備 考									
<p>担当教員：◎駒形 純也、遠藤 悠介、大塚 篤也 ※1：駒形担当、※2：遠藤担当、※3：大塚担当 21～22 回目の講義では、外部講師を招聘し、上肢アシストロボットについて講義を行う。</p> <p>教員の実務経験：駒形：理学療法士（クリニックや介護保険領域を中心に勤務） 遠藤：理学療法士（大学病院、整形外科クリニック、介護老人保健施設、スポーツ現場での勤務経験） 大塚：理学療法士（総合病院、整形外科クリニックでの勤務経験）</p> <p>実践的授業の内容：実務経験のある教員の指導のもと断端管理やアシストロボットを用いたリハビリについて理解を深める。</p> <p>授業時のフィードバック、意見交換：フィードバックは授業時間内または試験返却時に実施する。 意見交換の機会は授業時間内に実施する。</p> <p>感染対策：大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を厳守すること。問題がある場合は面接授業の参加は認めない。</p> <p>遠隔授業：Teams などを使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限のインターネット回線を強く推奨する。シラバスの内容は、授業の進行状況等により一部修正することがある。</p>									